

のうぜんのごつさり散つて花盛り

山田真砂年

ものごとの終りから、ものごとの始めを見とどける視線が一句を貫いている。地に「どつさり」散つている花を見れば、盛りのときの景が蘇る。未だ散つてはいない花と合わせて鑑賞すれば見事な「のうぜん」が立ち上がってくる。